



人的リソースが限られている中、AWS サービスの 可用性 / 柔軟性を活かして多数のサービスを提供。

デジタル ID ソリューション「xID」について

デジタルIDソリューション「xID」は、「マイナンバーカードをスマートに。」をサービスミッションに、スマートフォンとマイナンバーカードがあれば誰でも無料で使えるデジタルIDアプリと、マイナンバーカードやデジタルIDを活用した機能が簡単に実装できる OpenID Connect の国際標準仕様に準拠した API based SaaS を提供しています。現在トライアルを含め 350 以上の自治体が導入している自治体導入実績 No.1 のデジタルIDソリューションです。

開発要件・課題

あらゆる法令面の理解が必要なシステム設計。

- 行政のデジタルトランスフォーメーションにより、生活の根本がデジタル化される中、インターネットの世界には「トラスト」のレイヤーが足りていない。
- これまで対面で担保していた信頼性をデジタルで実現することは想像以上に困難である。
- デジタル社会における人のトラストを担保することで、信頼あるデータ活用やサービス利用、データ連携を実現する必要がある。

生活の根本を変えるデジタルサービスを生み出す重要なツールと考え、サービス提供にいたりました。サービス構築の課題としては、

- マイナンバーカードを使ったシステムの開発は、要件や規制が複雑。
- マイナンバーカードの署名用電子証明書から派生した民間の特定認証局発行の証明書を完全自動で発行しているデジタル ID は前例がない。
- サービスの実現にはあらゆる法令面の理解した上でシステムアーキテクチャを設計する必要がある。

インフラストラクチャについてもこのような要件を満たすことができる環境が必要でした。

人的リソースが限られた中でも 10~20 ものサービスの提供を可能に。

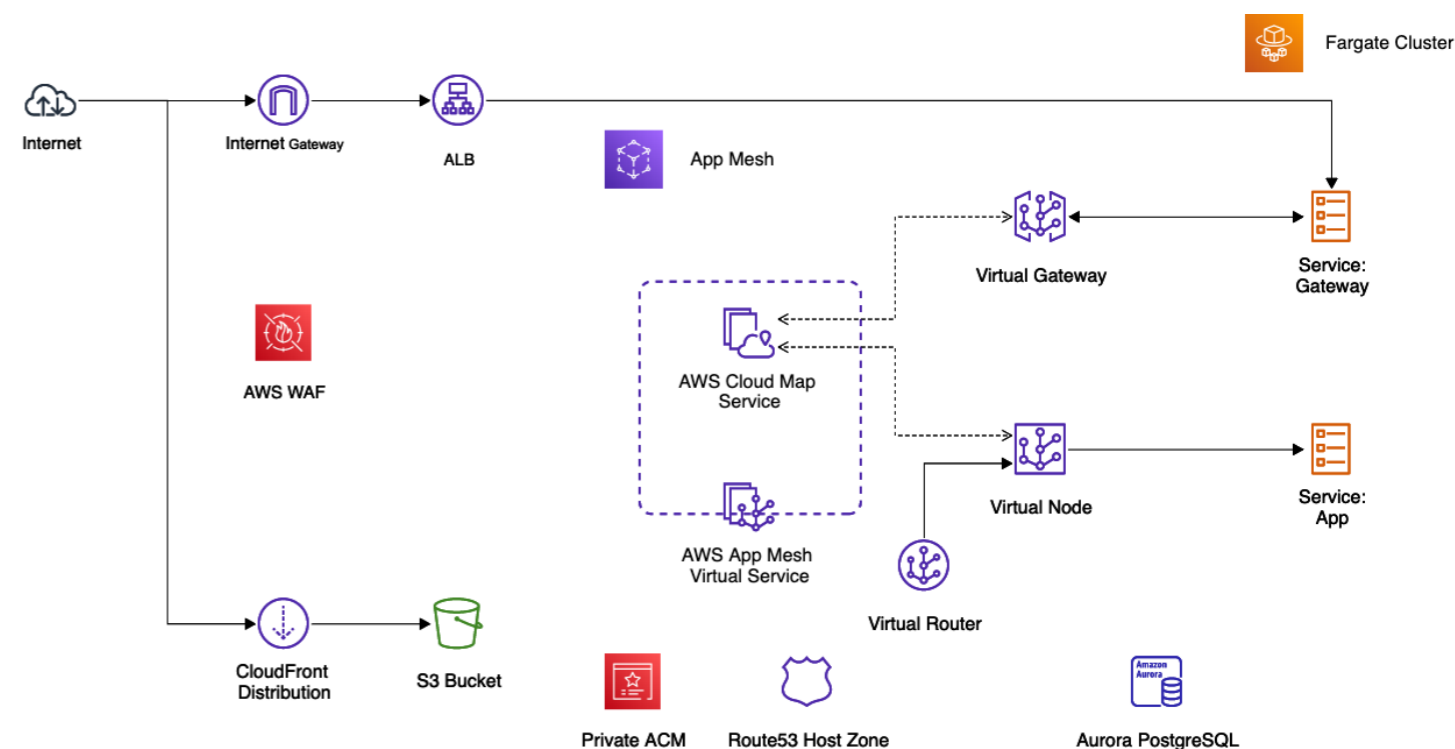
2022 年 11 月現在、全国で 350 以上の自治体に導入いただきました。(導入実績 No.1)

また、今年度からは大手クレジットカード会社での日本初となるマイナンバーカードによる本人確認にも導入されました。

AWS のメリット / AWS だからこそクリアできたポイント

- ECS Fargate の Managed サービス環境下においてマイクロサービスアーキテクチャを実現することができた。
- マイクロサービスをとりいれて個々のサービスを疎結合にしていくことで、将来的な拡張性やメンテナンス性の確保した。
- 一貫した通信制御を簡単に設定することができ、通信制御をアプリケーションロジックから分離することができた。
- ECS Fargate を用いたサーバーレスアーキテクチャを構築したことで、アプリケーションのデプロイ（パイプラインによる自動化）とスケールリングのリードタイムが大幅に圧縮された。
- アベイラビリティゾーンそれぞれにリソースを配置したり、オートスケールリングを設定したりすることで、簡単にサービスの可用性を確保できるところが、シンプルではあるが非常に強力。
- 本来アプリケーション開発の範囲として取り組むべきことをインフラ構成で吸収でき、開発工数削減にもつながっている。
- AWS による責任共有モデルを踏襲することで、ハードウェア層に起因する責務とソフトウェア層に起因する責務を明確に切り分けることができ、環境構築を達成することができた。
- SecurityHub や TrustedAdvisor などをも有効化することで、現在の構成のセキュリティや耐障害性を可視化でき、セキュリティ / 耐障害性に関する具体的な目標値を持って開発のワークロードを設定することが可能になった。

システム情報



今後の展望

Well Architected のレビューを実施したので、それに沿うより優れたワークロードを構築していく予定です。今後も新規のサービスを提供予定なので、Xray 等を活用したアプリケーション内部プロセスまで踏み込んだログの分析と可視化を行っていききたいと思います。